

第4章

交通事故被害者の直面する 精神的課題への治療・対応

I. はじめに

被害者への支援や治療の目的は、被害者の回復にある。第3章でさまざまな精神的問題を取り上げたが、多くの場合、被害者は自分の力や自分の周囲の資源を使って時間とともに回復していくことが可能である。

被害者支援で大切なことは、このような被害者自身のもつ自然の回復力を妨げないことである。そのためには、被害者の回復を阻害するような出来事を少なくし、回復を促進するような支援を行うことが重要である。しかし、精神疾患をはじめ、被害者自身の力だけでは回復が困難な問題も多く出現する。

この章では、被害者への基本的な対応と、精神科医療機関や心理療法の専門機関、精神保健福祉機関などの、より専門の機関での治療・対応について取り上げる。

II. 被害者の回復とは

回復ということを考えた場合に、被害者自身も周囲も被害以前の状態に戻ることが期待するかもしれない。しかし、このような大きな出来事を体験して全くもとの状態に戻るということは困難であろう。遺族の中には、回復してしまったら故人を忘れてしまうのではないかという心配さえする人もいる。

いかなる治療法を用いても事故を忘れるとか、事故についての辛い感情が全くなくなるということは不可能である。回復した状態というのは、そのような事故の記憶や辛い感情は残っていても、通常の日常生活や社会生活を送ることができ、人生に喜びや希望を持っているということであろう。

ハーマン（1997）は、回復について以下のように述べている。

「順調な回復という場合には、次にどんな危険がくるか分からない場合から信頼してよい安全感へと、解離された外傷から認知された記憶へと、そしてスティグマ（汚名）を帯びて孤立している状態から社会的結合が取り戻された状態へと方向に向かっての段階的な移行が認められている」（ジュディス・L・ハーマン著、中井久夫訳「心的外傷と回復〈増補版〉」、p242、1997）

つまり、被害者の回復は一直線ではなく段階的なものであり、最終的には社会とのつながりを感じられるような状態になっていることであることを示している。ハーマンは、回復の段階をそれぞれの主要な課題ごとに、次のように分けた。

第1段階「安全の確保」

第2段階「想起と服喪・追悼」

第3段階「通常生活との再結合」

このハーマンのモデルを参考にして考えると、支援もまた被害者の段階に応じて行うことが必要だといえる。